

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校玉城わかば学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	子どもたち一人ひとりが尊重され、自立と社会参加を目指して生き生きと活動できる学校	
(2)	育みたい児童生徒像	○よく学び、よく遊び、社会参加を目指して主体的に取り組む子ども ○自他の命を大切にし、互いを尊重しながら生き生きと活動する子ども
	ありたい教職員像	○特別支援教育に関する専門性の向上に努め、保護者・地域・関係機関と連携・協働して子どものニーズや特性に応じた教育活動や地域支援を推進できる教職員 ○高い人権感覚や安全意識を持ち、児童生徒・保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童生徒&gt; 卒業後に必要な、自立や社会参加につながる確かな力を育ててほしい。</p> <p>&lt;保護者&gt; 子どもたち一人ひとりの育った背景を理解し、個に応じた教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。</p> <p>&lt;地域&gt; 地域における特別支援教育の充実と推進のため、常にセンター的機能を発揮してほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 子どもたちを理解し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。子どもたちの一番の理解者でいてほしい。</p> <p>&lt;学校等の各機関&gt; 特別な支援が必要な子どもたちへの指導について、支援、助言、情報発信をしてほしい。</p>	<p>&lt;保護者&gt; 学校あるいは関係機関と連携し、密接な協力関係をもって、家庭における指導を進めてほしい。</p> <p>&lt;学校等の各機関&gt; 特別な支援が必要な子どもたちへの全校的な支援体制を確立し、指導する教員の専門性を向上させ、発達障がいを含む障がいのある児童生徒の指導を充実してほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育を推進する学校として、一人ひとりの教育的ニーズを的確にとらえた指導を行う必要がある。例えば、マスクを着けられるようにする指導において、マスクの素材、色や形、デザインなど、児童生徒の特性や興味関心をとらえた上で指導方法を工夫していくような姿勢が求められている。</li> <li>・児童生徒の意欲を高め、広く地域に本校のことを理解していただくために、より積極的な報道発信の機会を作っていくことが大切である。</li> <li>・オンラインの会議は移動時間を短縮できたり、多くの人に参加してもらえたりするが、微妙なニュアンスは対面のほうが伝えやすい。会議の目的に合わせ、どの方法で行うのか考える必要がある。授業も同様で、ICTありきではなく、より効果があるから有効活用するというスタンスをしっかりと保てるようにしたい。</li> <li>・コロナ禍の大変な時であるからこそ、教職員の助け合いが必要である。教職員の協力体制の強化を行う必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部における一般就労を希望する生徒の進路実現に必要なスキルの習得を柱にした教育内容の整備に取り組む。</li> <li>・ICT機器を活用した教育について、児童生徒の主体的な学びの充実と非常変災時における学びの継続を目指し、一層の環境整備を進めるとともに、教員のスキルアップに向けた研修を行う。</li> <li>・キャリア教育プログラムを活用して児童生徒の実態に即した目標を設定し、保護者との連携のもと、系統的なキャリア教育の実践に取り組む。</li> <li>・児童生徒の発達段階や障がい特性に即したより細やかな健康教育や性教育を行うとともに、児童生徒が主体的に活動し、自尊感情を育めるような人権教育を行い、命の大切さの理解につなげていく。</li> </ul>

学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりのコンプライアンスに係る意識の向上を目指し、より一層、全教職員が意見を出し合える職場環境づくりに取り組む。また、服薬対応をはじめとするヒヤリハット事象を0（ゼロ）にするためのよりチェック機能の高い方策を検討し、徹底する。</li> <li>・主事部を中心とした学部運営はもとより、小学部はクラス代表者会、中・高等部は学年代表等をそれぞれ中心とした学年運営や、分掌における班長を中心とした業務体制を充実させ、教職員相互の協力体制が取りやすい組織にしていけるよう、昨年度の改編内容を中心に検証していく。</li> <li>・児童生徒の実態や特性に応じた質の高い教育活動を行うため、教職員一人ひとりの専門性の向上、校内支援体制の強化に取り組むとともに、地域の特別支援教育を一層推進するために本校のセンター的機能をより充実させる。</li> <li>・引き続き総勤務時間の縮減を目指し、会議時間の短縮や定時退校の推進、年休取得率を高めるための具体策を検討し、実践する。</li> </ul>
-------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部コース制の見直しにおける新教育課程の充実と新学習指導要領に対応したICT機器を活用した児童生徒の主体的な学びの創造に取り組む。</li> <li>・卒業後の自立と社会参加をめざした系統的、組織的なキャリア教育を実践する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策を徹底し、児童生徒の命と家庭生活を守る教育活動を行う。</li> <li>・児童生徒の心身の健全な成長をめざす性教育と、自尊感情を高め、仲間とともによりよい生活をめざす人権教育に取り組み、命を大切にする教育を充実させる。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりのコンプライアンスにかかる意識の向上に努め、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。</li> <li>・教職員の専門性の向上、組織力の強化、人権意識の発揚に取り組む、教職員の資質向上を図る。</li> <li>・地域のニーズを的確に捉えた相談機能の強化、情報発信や問題提起を行い、センター的機能を引き続き充実させるとともに、校内コーディネーターによるアドバイスやST（言語聴覚士）による早期からの支援など本校児童生徒に対する支援体制の充実を図る。</li> <li>・災害対応・事故対応等、より幅広い視点から学校危機管理体制を充実させる。</li> <li>・業務内容や運営方法の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む、働きやすい職場環境づくりを行う。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1) 高等部コース制の見直しに係る新教育課程において、生徒の進路実現に必要なスキルの習得を柱にし、個々の力の育成につながるよう、充実した学習内容を構築する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程における学習内容が一般就労を希望する生徒の進路実現に向けたものとなっているか検証する。</li> </ul> <p>(2) ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学びに取り組む。</p> <p>① 持続可能なICT環境を構築する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員がICT機器をスムーズに活用できるようになる。</li> <li>・ICTに係わる専門業務を外部のサービスを利用し、トラブル等への対応を強化</li> </ul>	<p>(1) 高等部ワーキングでの検討の結果、新しいカリキュラムの提案には至らなかったが、現行カリキュラムの中で、新しい取組として「Ⅱコース生徒の清掃技能検定の受検」と「地域での職場体験実習」を増やし進路実現に向けた学習を進めることができた。また、カリキュラムマネジメント委員会では今後の検討に向けての方向性を確認することができた。</p> <p>(2)</p> <p>① ICT機器の利用機会を増やし、機器の応用活用を目指した取組としてICTスキルアップグループ研修を実施した。また、GIGAスクールサポーターが12回来校し、OS・アプリのアップデート作業、研修の実施やICTに係る様々な相談に</p>	<p>※</p> <p>◎</p>

	<p>する。</p> <p>② ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学びに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、ICT機器の活用によって児童生徒の学習への意欲が向上したと回答した割合：80%以上</li> </ul>	<p>応じてもらった。</p> <p>②授業の中で、ICT機器を効果的に活用できるよう、年度当初研修を行った学部もあり、行事等の事前学習で調べ学習をしたり、様々なアプリを使って学習活動を行ったりすることで、児童生徒の学習意欲が高まった。また、ICTを活用した主体的な学びに取り組みやすくするために、共有フォルダの環境を整えるべく準備を進めている。</p> <p>活動指標となる教職員アンケートは後日施予定である。</p>	
キャリア教育の充実	<p>(1) 卒業後の自立と社会参加をめざして系統的・組織的にキャリア教育を進める。</p> <p>① 児童生徒の生活年齢や発達段階に応じて系統的にキャリア教育を実践する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育プログラムを指標として児童生徒の実態に即した目標を設定し、学習活動に取り組む。</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部生徒の進路希望が実現できた割合：100%</li> <li>・キャリアパスポートが活用できた割合：100%</li> </ul> <p>② 保護者のキャリア教育プログラムについての理解を進める。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会や懇談会で、保護者の理解を深め、キャリア教育プログラムを指標とした個別の教育システムの活用を推進する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>① キャリア教育プログラムの能力領域・観点に基づいた学習活動及び進路指導を行った。全員の進路希望が実現できるよう引き続き支援を続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望が実現できた割合：96%</li> <li>・キャリアパスポートの活用：100%</li> </ul> <p>② 各学部での進路説明会や個別懇談会、授業参観の機会を利用してキャリア教育プログラムを個別の教育システムや授業等で活用していることの周知を図った。また、キャリア教育プログラムシートを作成し、授業参観では、授業のねらい（目標やキャリア教育プログラムの能力領域・観点）や選んだ理由などを示した。</p>	※
いのちを大切に する教育の推進	<p>(1) 必要性を理解し、徹底した新型コロナウイルス感染症に係る感染防止対策に取り組む。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の発達段階に応じて感染症対策を習慣化するとともに、学校保健委員会を中心として、日常生活、授業、行事、給食、スクールバス、授業参観等保護者来校時の対応、外部機関との連携など本校の感染防止対策を整備し、取り組みを進める。</li> </ul> <p>(2) 健全な心身の発達をめざし児童生徒の発達段階に応じたいのちや性について考える教育に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学部を通じた系統的な取り組みとして、学部毎に年3回行う。</li> </ul>	<p>(1) 拡大学校保健委員会を5回開催し、感染防止対策をその都度、検討、確認することにより、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れるように努めた。</p> <p>(2) 児童生徒の発達段階に応じて、以下のように系統的に学習を実施した。</p> <p>[小学部] 高学年の女子に対して、二次性徴について資料や模型を使って学習した。</p> <p>[中学部] 11月に思春期保健相談士の中谷奈央子先生による「いのちを大切に する教育（中、高）」を実施した。その後、学部の中で男女課題別のグループに分けて、4回実施した。（計5回実施）</p> <p>[高等部] 11月に中谷奈央子先生の講演会をⅡコース生徒中心に男女合わせて行い、1月に三重県立</p>	※

	<p>(3) 児童生徒が自尊感情を高め、仲間とともによりよい生活をめざす人権文化の構築に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会や人権掲示板、「玉城わかばの木」の取り組み等、児童生徒の主体的な活動を年3回以上行う。</li> </ul>	<p>看護大学の講演会を男女別に実施し、「思春期のこころとからだ」について学んだ。また、Iコース生徒には発達段階に応じた体と心についての学習を行った。</p> <p>(3) 人権掲示板「わかばの仲間の取り組み」を2カ所に増設して実施した。また、「わかばの木」の取組を年間3回、以下のように行った。</p> <p>1学期 希望の木 2学期 はあとの木 3学期 感謝の木（取り組み中）</p> <p>児童生徒会役員が全校集会で紹介するなど、人権意識を高める工夫をしている。</p>	※
--	--	--	---

**改善課題**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部が今年度進めてきた一般就労希望者のスキルアップに向けた取組を、より充実させられるようなカリキュラムを、高等部ワーキングやカリキュラムマネジメント委員会で引き続き検討していく必要がある。</li> <li>・ICT機器の配備が充実されることで分散授業などが円滑にでき、わかる授業や児童生徒が主体的に取り組む授業づくりに繋ぐことができた。その反面、保守管理業務が増え、専門知識も必要とされることから、今後も配備されたICT機器を有効利用するため、一層GIGAスクールサポーターの助力を得ながら、研修や授業実践の充実、共有が必要である。</li> <li>・キャリア教育プログラムの活用について、授業づくりや保護者への周知は概ねできた。引き続き、連携しながら取組を推進していくため、保護者に向けた進路関係の行事や懇談会等を充実させていく。また、授業参観において活用したキャリア教育プログラムシートについては、見易さなどの工夫も重ね、継続して取り組んでいく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る対応については、今後も状況に即した方針を拡大学校保健委員会で検討していく必要がある。また、児童生徒の発達段階に応じたいのちや性について考える学習、児童生徒が主体となって活動する人権学習なども継続し、繰り返し行うことで、児童生徒の心と態度を育てていく。</li> </ul>
--

**(2) 学校運営等**

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
コンプライアンスの徹底	<p>(1) 「三重県立特別支援学校玉城わかば学園教職員倫理規定」を常に意識して行動する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤職員は毎月1回、非常勤職員は年3回(各学期1回ずつ)、自身の行動について確認する機会を持つ。</li> <li>・教職員アンケートにより、概ね意識して行動できたという回答の割合: 100%</li> </ul> <p>(2) 「信頼される学校であるための行動計画チェックリスト」を定期的実施し、常に意識して行動する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤職員は毎月1回、非常勤職員は年3回(各学期1回ずつ)チェックリストを実施し、その実施率及び意識して行動した割合: 100%</li> </ul>	<p>(1) 常勤職員は毎月デスクネットのアンケート機能を活用し、非常勤職員は学期ごとに紙面により確認の機会を持った。</p> <p>○教職員アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね意識して行動できたという回答: 96.5%</li> </ul> <p>(2) 常勤職員は毎月デスクネットのアンケート機能を活用してチェックし、非常勤職員は学期ごとに紙面によりチェックする機会を持った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックリストの実施率及び意識して行動した割合: 100%</li> </ul> <p>※但し、長期的な休暇取得者等を</p>	※

	<p>(3)教職員相互におけるヒヤリハット事象報告に取り組み、事故を未然に防止できる職場環境づくりを行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬場面など、指導場面や業務におけるヒヤリハット事象の発生：0回</li> </ul>	<p>除く。</p> <p>(3) 服薬および服用薬の返却に係るヒヤリハット事象はなかった。</p>	
組織力の向上	<p>(1) 教員組織の再編を受け、学年代表を中心とする学年運営や班体制による分掌運営について検証し、組織的かつ効率的な業務の運営をめざす。また、学部全体で児童生徒の情報共有をし、より良い指導、支援を目指す。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートより、教員相互の協力体制が強化され、業務の偏りが是正されたという回答の割合：80%以上</li> <li>・学部会等で情報共有の場を確保でき、指導方法や支援につなげることができたという回答の割合：80%以上</li> </ul>	<p>(1) 再編した組織での運営が2年目となり、学部、分掌ともに定着しつつあり、組織的に取り組めるようになった一方で、業務の偏りや効率化についてはまだ課題が残っている。また、学部全体での情報共有については、学部会で必ず時間を設定するなどして全学部工夫をして取り組んだ。</p> <p>○教職員アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の偏りが是正されたという回答の割合：87.5%</li> <li>・情報共有の場を確保でき、指導方法や支援につなげることができたという回答：94.6%</li> </ul>	※
教職員の資質向上	<p>(1) 実効性のある教職員研修を充実させ、専門的な指導力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTスキルアップグループ研修の実施</li> <li>・各分掌等発信による全体研修の充実</li> <li>・特別支援コーディネーターや校外研修等の還流報告</li> <li>・夏季教育研修会の充実</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器や機能の積極的な利用と児童生徒のためのICT授業実践について、研修満足度：80%以上</li> <li>・教職員アンケートにおいて、研修参加者の満足度：80%以上</li> </ul> <p>(2) 教職員の人権意識の発揚に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季教育研修会で、外部専門家による人権研修会（「性の多様性を認め合い安心して暮らせる三重県づくり条例」）を開催し、参加者アンケートにおいて、満足度：80%以上</li> <li>・子どもの人権を大切にするための振り返りにおいて、全項目90%以上達成</li> </ul>	<p>(1) 年間を通じ、教員のニーズや学校として必要性の高い内容について研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTスキルアップグループ研修は年間4回のグループ別研修と還流報告を実施。</li> <li>・夏季休業中に研修ウィークを設定し、全分掌から必要と思われる内容について実施した。分掌によっては外部講師を招聘して実施したものもあった。</li> <li>・年間4回還流報告会を実施した。</li> <li>・夏季教育研修会は外部講師を招聘し、「タブレット端末を使ってできること～障がいのある子どもたちの世界がどう広がるか～」をテーマに研修会を実施した。</li> </ul> <p>○教職員アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTスキルアップ研修満足度：97.2%</li> <li>・夏季教育研修会満足度：83.7%</li> </ul> <p>(2) 人権意識の発揚に向け、次のような研修等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季人権研修会の実施</li> <li>「多様な性のあり方について考える」をテーマに実施した。（外部講師による）</li> </ul> <p>○教職員アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度：97.8%</li> <li>・学期に1回デスクネットアンケートを活用して実施した。</li> <li>全項目90%以上を達成した。</li> </ul>	※

<p>校内支援、 校外支援 (センター的 機能)の充実</p>	<p>(1) 校内支援体制を充実させる。 【活動指標】 校内コーディネーターの配置および情報共有会を実施する</p> <p>(2) 校外支援(センター的機能)を一層充実させる。 【活動指標】 巡回相談の継続および関係機関と連携し、相談機能の強化に取り組む</p> <p>(3) ST(言語聴覚士)による早期からの校内支援を充実させる。 【成果指標】 ・小学部へのアセスメント実施および校内相談窓口を設置する</p>	<p>(1) 校内コーディネーター業務として、児童生徒に関する相談、ケース会議の情報共有などを担った。また、情報は支援部会で共有した。</p> <p>(2) 巡回相談はのべ48校(幼保7園、小28校、中13校)、高等学校1校で実施した。これ以外にも電話や来校により対応したケースもある。</p> <p>(3) 担任より個別にアセスメントを依頼されることが増えた。(給食時、授業中の観察含む)また、校内研修にて気になる児童生徒について還流報告を行った。校内の相談は16件。なお、小学部児童に対するアセスメントは、子どもの実態を鑑み、全員ではなく、担任と相談の上、実施している。校外からは電話相談が5件あった。</p>	<p>◎</p>
<p>情報発信による信頼の構築</p>	<p>(1) ホームページ等を積極的に更新する。 【活動指標】 ・年12回以上ホームページの更新を行う。</p> <p>(2) 特別な教育活動を行う際には、報道機関への情報提供を行う。 【活動指標】 ・年3回以上報道提供を行う。</p>	<p>(1) 給食紹介は給食実施日に更新を行っている。2月17日時点で行事を中心に14回更新を行った。</p> <p>(2) 高等部職業コースの田丸駅清掃、ピンクマスクデーについて情報提供を行ったが、年3回という指標は達成できなかった。</p>	<p>※</p>
<p>危機管理体制の強化</p>	<p>(1) 様々な状況を想定した避難訓練を実施する。 【活動指標】 ・引き渡し訓練を実施し、保護者の参加目標60%以上</p> <p>(2) 危機管理マニュアルの見直し 【成果指標】 内容を見直し、さらに活用しやすく、意義あるマニュアルにしていく</p> <p>(3) 大災害や福祉こども避難所の認定を見据えて、多角的な防災研修を実施する。 【成果指標】 ・教職員対象の避難所運営研修を行い、本校の課題を見出す。</p>	<p>(1) いくつかの状況を想定した訓練を計画していたが、引き渡し訓練やスクールバス避難訓練、伝言ダイヤル使用訓練は実施できたものの、感染症の影響等により実施できなかったり、通常の避難訓練に切り替えたりしたものもあった。引き渡し訓練について、参加率は増加したものの、目標は達成できなかった。 ・引き渡し訓練への保護者の参加率:57%(小14名、中27名、高36名)</p> <p>(2) 危機管理マニュアルは、現在見直し中であり、2月末に完了予定である。</p> <p>(3) 8月26日に外部講師を招聘して、職員対象の研修会を開催した。「防災教育の現状や課題」「子どもたち・保護者・教職員が防災対策にむけてどのような力が必要か」についての講演と、玉城町周辺の地図を用いて「図上訓練」を行い、危機管理意識を高めることができた。 ・参考になったと答えた教職員:90%</p>	<p>※</p>

<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>(1) 総勤務時間の縮減に取り組む。 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回設定された定時退校日に、定時退校できた職員の割合：90%以上</li> <li>・放課後の職員会議等の会議時間を1時間以内と設定し、実施率：92%以上</li> <li>・部活動休養日は1週間に1日、平日の活動時間は2時間以内と設定し、達成率：100%</li> <li>・時間外労働時間が月45時間、年360時間（変形労働時間適用者は月42時間、年320時間）以内達成：100%</li> <li>・年次休暇平均取得日数：13日以上</li> </ul>	<p>(1) 総勤務時間の縮減に向けて、活動指標に示した内容に全て取り組んだ。達成状況は以下とおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の定時退校：99.3%</li> <li>・1時間以内の会議終了：79.7%</li> <li>・部活動休養日の設定と達成：100%</li> <li>・時間外労働時間月45時間の超過5月に1名、11月に2名それ以外は達成した。</li> <li>・年次休暇平均取得日数：12.7日 &lt;1月末現在&gt;</li> </ul>	<p>※</p>
---------------------	--	---	----------

改善課題

- ・コンプライアンスの徹底を目指し、意識を高く持つために全教職員が意見を出し合う機会を設けるなど、一層工夫した取組ができるようにしていく必要がある。ヒヤリハット事象について、服薬に係る事象は0件であったが、連絡帳の取り違えなど服薬以外の事象は起こっており、引き続き注意喚起を促していかなければならない。
- ・昨年度より学年代表を中心とする学年運営や班体制による分掌運営など改編を行い、組織力を高めることはできたが、業務の偏りの解消についてはまだ大きな成果に結びついていない。引き続き、業務改善も含め検討していく必要がある。学部会などでは、今後も情報共有や児童生徒への指導方法や支援について深く話し合い、一層協力して対応できる体制づくりに努めていく。
- ・教職員の資質向上において、ここ数年でICTに関わる研修を継続してきた。今年度は教職員用のiPadも導入され、次年度はより実践的で、デジタルとアナログそれぞれの良さも取り入れた有用的な研修を検討したい。加えて、次年度は校務支援システムの導入や教育課程、年間指導計画の見直しが必要であることから、全教職員がアイデアを持ち寄り、知的障がい領域の学習内容を整理し、系統的なカリキュラムの構築も併せて検討していく必要がある。
- ・センター的機能の充実について、校外支援は地域の保幼小中高からのニーズは高く、市町教育委員会と連携した支援を継続していく。高校支援は、今後、支援の必要な生徒の高校進学が多くなることから、南勢地区の窓口として、支援体制など特別支援学校ができることを各校に伝えていく必要がある。一方、校内支援については全教員の支援に係るスキルアップを目指し、各学部の支援窓口設置等についても検討していく。
- ・情報発信については、ホームページやSNSの更新頻度は上がったが、保護者からは更なる情報発信を期待されており、教職員全体の情報発信に対する意識を上げていく必要がある。
- ・危機管理体制の強化について、引き渡し訓練の参加率が目標をわずかに下回り、啓発方法や取組内容に工夫が必要である。また、これまでの防災研修からのフィードバックを内容に取り入れた訓練の実施も検討し、より様々な観点から防災体制を見直していかなければならない。危機管理マニュアルについては見直しのみならず活用場面を増やし、教職員の意識や知識の向上を図っていく。
- ・会議時間の短縮や定時退校の推進、年休取得率を高めるための具体策を様々な角度から検討し、引き続き総勤務時間の縮減に取り組んでいく。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用について、デジタル教科書の導入も検討してみてもどうか。文部科学省著作教科書（通称☆本）もデジタル教科書が発行されており、活用しやすい児童生徒もいるのではないかと。また、平素から絵カードコミュニケーションツールを使用している場合は、アプリも開発されており、移行していくのも良いのではないかと。</li> <li>・保護者アンケートの結果で満足度が低くなった情報発信については、保護者のニーズがどこにあるのかを考える必要がある。ホームページなどの更新頻度を上げることのみならず、学校だより等の紙ベースでの通信を充実し、子どもたちの日々の姿や行事の様子を細やかに伝えたり、進路情報や防災情報等を得たりできるようにすることができるようになるなど、内容の充実が求められている。</li> <li>・高校支援については今後ニーズの増加が予想されるが、特別支援学校のセンター的機能の活用方法が正しく認知されていない場合もあることから、高校へ周知する方法や、相談窓口設置など具体策を考えてみてはどうか。</li> <li>・危機管理において、地域との連携はかかせないが、通学区域の3市4町それぞれ状況が違う。災害時の支援体制など、学校と市町の福祉や災害対策の部署等との情報共有を密にし、共同での訓練を実施するなど、協働できる体制を整えていかなければならない。</li> <li>・教職員アンケートでは、組織改編により組織的な運営はしやすくなっているものの、</li> </ul>
----------------------------	---

業務の偏りを減らすという点で効果が感じにくいという状況がある。過重労働対策として、引き続き、改善に向けた対策を検討し、働きやすい職場づくりに努める必要がある。

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等部が進めてきたコース改編後の一般就労希望者のスキルアップに向けた取組を、より充実させられるようなカリキュラムや授業内容を、引き続き検討していく。</li> <li>・ 導入されたICT機器の有効利用に向けて、GIGAスクールサポーターの助力を得ながら、より個々の障がい特性に応じた活用ができるように研修や授業実践の充実、共有をしていく。</li> <li>・ キャリア教育プログラムの活用について、授業づくりや保護者への周知を継続的に行い、進路関係の行事や懇談会等を充実させる。</li> <li>・ 今後も、児童生徒の発達段階に応じたいのちを大切に学習や性について考える学習、児童生徒が主体となって活動する人権学習などを継続し、繰り返し行うことで、児童生徒の心と態度を育てていく。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス意識を高く持つために、全教職員が意見を出し合う機会を増やすなど、一層工夫した取組を検討する。また、ヒヤリハット事象0（ゼロ）を目指し、各クラスで具体策を講じるなど全体の危機意識を高めていく。</li> <li>・ 業務の偏りの解消なども含め、組織力の強化と働き方改革の両側面から運営組織の改善に向けて引き続き検討する。また、指導・支援の方法等について情報共有を徹底し、学校全体の協力体制を充実させる。</li> <li>・ 教職員の資質向上に向けて継続的に研修を行っていくと共に校務支援システムの導入や新教育課程の編成に向けて全教職員で系統的な学習内容や学習方法について検討していく。</li> <li>・ センターの機能を一層充実させ、高校支援も含め体制などを整備する。また、校内支援は、全教員の支援に係るスキルアップを目指し、児童生徒や保護者のニーズに適切に応えられるようにしていく。</li> <li>・ 危機管理体制の強化に向けて、通学区域全市町の福祉及び防災関係部署との連携・協働を推進する。また、災害のみならず、より多角的な危機意識を持ち、安全対策を講じていく。</li> <li>・ 会議時間の短縮や定時退校の推進、年休取得率を高めるための具体策を様々な角度から検討し、引き続き総勤務時間の縮減に取り組む。</li> </ul>